

長久手市在宅医療・介護連携支援センター(やまびこ長久手) の2023年度実施報告

(1) 地域の医療・介護サービスの関係者へ連携に必要な情報の提供

- ・担当利用者が服用中の睡眠薬や抗精神病薬についての日頃の困りごとのアンケート調査 (市内の居宅介護支援事業所・地域包括支援センター対象) 5月実施
- ・「愛・ながくて夢ネット」の患者タブ利用に関するアンケート調査 (市内の登録事業所対象) 11月実施

(2) 2023年度入退院支援部会 の運営

入退院に関わる連携が適切に行われるように地域の病院と医療・介護関係者と連携し、課題の抽出と課題の解決に向けた取組み (部会員:近隣9病院・市内地域包括・居宅介護支援事業所・訪問看護)

・部会参加者:毎回30名程度

9病院・2クリニック・4訪問看護・2地域包括センター・8居宅介護事業所・長寿課・やまびこ長久手入退院における連携の輪を、今後はクリニックの医師にも広がっていきます

※近隣9病院:愛知医科大学病院・東名病院・瀬戸みどりのまち病院・川島病院・メイトウホスピタル
愛知国際病院・日進おりど病院・福友病院・東名古屋病院

2クリニック:水野内科・アガペクリニック

・年4回開催の部会を通し行ったこと

「長久手エリア入退院連携ガイドブック」と「わたしの思いをつなぐシート」を作成しました

①「長久手エリア入退院連携ガイドブック」について

これまでに作成した入退院時連携のツールを見直し、ガイドブックとしてまとめ、市のHPに掲載しています

<https://x.gd/pFR1u>

「長久手エリア入退院連携ガイドブック」で検索

②「わたしの思いをつなぐシート」について

これまであまり情報共有できていなかった「本人の思い(ACP)」を確認するためのシートとして作成しました
本人が書いて終わりではなく、支援していくチームで思いを共有し、繰り返し確認していきます

活用するためのフロー「わたしの思いをつなぐシート活用のタイミング」も同時に作成

2024年4月より市内ケアマネジャー・クリニックを中心に活用を開始します

元気なうちから考えてみませんか?

あなたの思いや大切にしている事を伝えるひとつの方法として「人生会議」(ACP)が有効なツールです。

長久手エリアACPシート「わたしの思いをつなぐシート」

長久手市医療・介護・福祉ネットワーク運営分科会 入退院支援部会

あなたの「思い」は次の3つを中心に記しておきましょう

1. あなたにとって大切にしたいこと
2. あなたが受ける「医療」や「ケア」に対する希望
3. あなたの代わりに「医療」や「ケア」に関する選択をする「代弁者」

あなたの希望をあなたの言葉で伝えることは、あなたの大切な人を守ることもなります

あなたの思いや大切にしている事を伝えるひとつの方法として「人生会議」(ACP)が有効なツールです。

意思決定能力が低下する場合に備え、あらかじめあなたの望む医療とケアについて家族や親しい方々、あなたの医療・ケアに関わる支援者と話し合っておくことは、大切なことです。

人は、誰にでも人生の最期を迎える時が訪れます。自分にもしものことがあった時に備え、「自分はこうしたい」「こう生きていきたい」という希望を元気づけながら自分自身で考え、自分の言葉で残しておきたいですか?

「わたしの思いをつなぐシート」を書くにあたっての留意点

「わたしの思いをつなぐシート」は、記録することが目的ではありません。家族や親しい方々と自分の生き方(最期の時も含め)について十分に話し合う、その過程がとても大切です。かかりつけ医や主治医、ケアマネジャー、あなたの関心している支援者にも相談しましょう。

人の気持ちには揺れ動くものです。環境や心身の調子によって変化します。気持ちが変わったときはいつでも、何度でも書き直すことができます。定期刊行内容を再見することも大切です。書き直した日付は忘れずに記載しましょう。

※「わたしの思いをつなぐシート」には法的効力や強制力はありません。

※医師をはじめとする医療従事者や介護従事者は、本人の意思が確認できる場合には、本人による意思決定を基本とした上で、医療(治療)・ケア(介護)に関する方針を決定します。本人の意思が不明な場合は、医療・介護の妥当性・適切性を判断して、本人にとって最適な医療(治療)・ケア方針をとることを基本とします。

【参考】本人の意思決定における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン(2018.3月 厚生労働省)

わたしの思いをつなぐシート

このシートは、あなたがあなたらしく生きられるよう、支援者たちがあなたの思いを共有するシートです。あなたの思いをお聞かせください。

氏名: _____ 初回記入日: _____ 年 月 日

1. あなたにとって大切にしたいことは何ですか? もしもの時、どのように暮らしていきたいですか?

該当するものを1つから3つまで選んでください

	初回	変更あり ※下記に年月日記入			
楽しめること	<input type="checkbox"/>				
身の回りのことが自分でできること	<input type="checkbox"/>				
先々に起こることを詳しく知ること	<input type="checkbox"/>				
一日でも長く生きること	<input type="checkbox"/>				
家族や大切な人と時間を過ごすこと	<input type="checkbox"/>				
家族の負担にならないこと	<input type="checkbox"/>				
その他伝えたいこと					

2. あなたが受けるケアや治療の希望は?

①もしも病気になる、大きなケガをしたら?

該当するものを1つから3つまで選んでください

	初回	変更あり ※下記に年月日記入			
一日でも長く生きられるような治療を受けたい	<input type="checkbox"/>				
期間を決めて治療を受けて、それから考えたい	<input type="checkbox"/>				
とにかく病気が治ることを目的とした治療を受けたい	<input type="checkbox"/>				
痛みや苦しみを和らげるためのケアや治療を受けたい	<input type="checkbox"/>				
延命は考えず、穏やかに過ごしたい	<input type="checkbox"/>				
②もしも介護が必要となった時は、どのように過ごしたいですか?					
●どのような?	初回				
家族・親しい人に協力してもらいたい	<input type="checkbox"/>				
家族・親しい人に迷惑をかけたくない	<input type="checkbox"/>				
食事が口から食べられる生活がしたい	<input type="checkbox"/>				
トイレが最悪でも自分でできる生活がしたい	<input type="checkbox"/>				
その他伝えたいこと					
●どこで?	初回				
病院	<input type="checkbox"/>				
施設	<input type="checkbox"/>				
自宅	<input type="checkbox"/>				
その他(最期の時はどこで? 決まっていたら書きましょう)					

3. あなたの代わりに判断は誰にしてほしいですか?

●病状の悪化等により自分の考えが伝えられなくなった場合には、あなたの代わりに判断は誰にしてほしいですか?

①氏名: _____ (続柄) _____ 連絡先: _____

②氏名: _____ (続柄) _____ 連絡先: _____

長久手市医療・介護・福祉ネットワーク運営分科会 入退院支援部会 2024.3月作成

★入退院支援部会の様子

入退院に関わる多職種の意見交換を大事にしている、グループワークをメインに行っています。

「わたしの思いをつなぐシート」作成・活用について、在宅側・病院側それぞれの熱い思いが語られていました。



(3) 長久手市内看護職連携 への支援

①看護機能連携ネットワーク会議(愛知医大を中心とした近隣14病院の看護部長連携)にオブザーバー参加

ネットワークの病院:愛知医科大学病院・東名病院・瀬戸みどりのまち病院・川島病院・メイトウホスピタル
愛知国際病院・日進おりど病院・福友病院・あさい病院・愛知医大メディカルセンター
井上病院・中央病院・日進南病院・青山病院・

②看護機能連携実務検討会の世話人会(偶数月の開催)に参加

実際に臨床で働く看護師の連携強化と地域の看護の質向上を目指す 今年度のテーマは「口腔ケア」

・第3回実務検討会 10/11(水)17:30~18:30 ハイブリッド開催 参加者135名

「口腔ケアの基礎」 講師 愛知医大の摂食・嚥下障害看護認定看護師さん

・第4回実務検討会 11/15(水)17:30~18:30 ハイブリッド開催 参加者141名

「口腔ケアの実践」 病院から:あさい病院と東名病院から病棟での口腔ケアの困難事例紹介

つなぐ会から:訪問看護ステーション 仁 長久手から在宅での口腔ケア事例紹介



③長久手市看護職連携 つなぐ会

主な参加メンバー:病院 NS・訪問看護・市内地域包括支援センターNS・施設 NS・市役所 PHN 等

今年度からクリニックの看護師も参加されるようになりました

毎回の参加者は23名程度

- 第1回4/21 「今年度のスケジュール・話したいテーマ」
- 第2回6/16 「外来のみでフォローしている方について」
- 第3回8/18 「災害時の対応・BCP この地域で確認しあうこと」
- 第4回10/20 「認知症の方への支援について」
- 第5回12/15 「精神疾患のある方への支援①病院からの事例」
- 第6回 2/16 「精神疾患のある方への支援②地域からの事例」



★看護職連携つなぐ会の様子

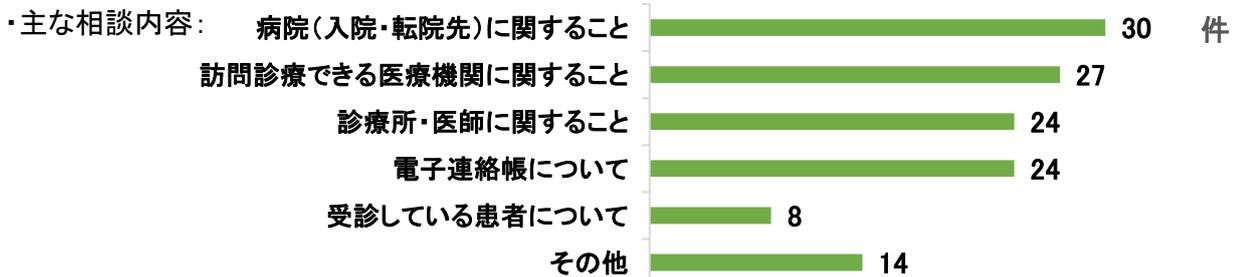
看護職が職域を超えてつながりを持ち、看護職として感じる地域課題について話し合い、「地域につなぐ」「病院につなぐ」看護の力でできることを一緒に考えていきます



(4) 医療機関・介護従事者などへの相談支援

2023年4月～2024年3月末 相談件数 148件

・主な相談者:病院25% 医師18% ケアマネ17% 地域包括12% 行政7% など



(5) 2023年度多職種連携推進・交流部会の運営

多職種の連携に関わる研修の企画・実施

今年度部会員 31名(愛知医大6名・陶生病院1名・地域包括3名・居宅17名・障がい事業所1名等)

部会は6回開催
★部会の様子



今年度は4つのテーマ

①日々の業務に役立つ研修

ハイブリッド開催

・第1回愛・ながくて夢ネット研修会 6/29(木)参加者100名

「知ってナットク! 睡眠薬・抗精神病薬のあれこれ」

講師:愛知医大 薬剤部主任 加藤隆寛氏

愛知医大 精神科認定看護師 佐藤輔氏



多職種のみなさんから事前に集めた日々の困りごと・疑問にもお答えいただきました

・第2回愛・ながくて夢ネット研修会 8/23(水) 参加者47名

「ポジティブ心理学の発想で自分の強みを活かして多職種でつながろう～多職種連携つよみカルタの体験～」

講師:愛知医大 看護学部基礎看護学 准教授 山本恵美子氏



参加者のコメントより

- ・カルタをしながら皆さんの強みに気づくことができた
- ・人それぞれに違う強みがたくさんあることがわかった

・「あのドクターとの交流会」

第7回9/22ゲスト 安藤英也 Dr.(こせんじょう通あんどクリニック) 参加者17名 録画視聴50名



クリニックの待合室をお借りして行うドクターとの交流会です



診療以外でお話できる機会ということで、ドクターの人となりがあると、多職種に好評をいただいています

②ACP(終末期の意思決定に関する研修)

・第3回愛・ながくて夢ネット研修会 11/15(水) 参加者46名

「人生100年これからゲームで語り合ってみませんか? ～これからの人生を考え・伝え・共にする～」

1部:中村 了氏(栄エンゼルクリニック)による講演

2部:「人生100年これからゲーム」の体験

・市民向け「人生100年ゲーム体験会」長久手温泉とのコラボ企画 1/11(木)

交流部会員8名が進行役を務め、31名の市民が参加しました。



100歳の自分に大切なことは何か考えていきます

③電子連絡帳の有効利用

・第4回愛・ながくて夢ネット研修会 1/18(木) 参加者37名

「夢ネットの患者タブをうまく使って多職種で情報共有しよう!

事前に患者タブアンケートを全利用者に実施(回収率80%)

内容:患者タブ使用方法・ケアマネから事例紹介

患者タブ利用についての意見交換

講師:IIJ(インターネットイニシアティブ)小椋 大嗣氏

意見交換会 ゲスト:永井 Dr.



④長久手市若年性認知症社会参加支援モデル事業への協力

・共生カフェ 南小学校区共生ステーションを会場に毎月開催

・若年性認知症の勉強会の開催(地域の医師対象) 12/5(火)19:30~21:30 参加者74名
「若年性を取り巻く地域課題を考える」

モデル事業は今年度で終了しますが、引き続き認知症の取り組みへの支援をしていきます

(6) 市民への普及啓発 今年度のテーマは「認知症」

①出前講座 主な内容: 在宅医療と介護・エンディングノート・人生100年ゲーム体験会
計6回実施 内容:在宅医療と介護・エンディングノート・人生100年ゲーム体験会
「明るく学ぶエンディングノート講座」「ふれあいサロン終活ちよっと前セミナー」
長久手市身体障害者福祉協会・ういいういの会・長配3丁目アクティブシニア等に伺いました



エンディングノートに関心のある方が
たくさんお集まりくださって質疑応答が
盛り上がりました
医療・介護の専門職からの視点が良かったと
コメントもいただきました

②講演会の開催(長久手市文化の家 森のホールにて)

★東名古屋医師会長久手支部主催講演会への協力

・長久手市の在宅ケアに関するシンポジウム 10/14(土) 参加者174名

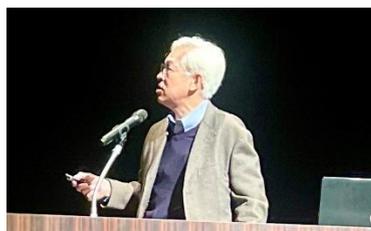
「地域で支える認知症」 認知症の方を支えるこの地域のサポートについて皆さんと学びました。



- ◆認知症に人の気持ちと関わり方
- ◆認知症ケアパスご存じですか？
- ◆認知症になっても暮らしやすい地域へ
- ◆認知所サポーター体験談
- ◆市内認知症カフェの動画紹介
- ◆認知症予防体操

・「あのドクターにあのお話を」 1/13(土) 参加者231名

長久手支部会員の4人の Dr.が専門分野の話題で講演しました。



朝日が丘整形外科
塚本正美 Dr.



あやこ長久手皮ふ科
森下綾子 Dr.



スズムラ眼科医院
鈴木好人 Dr.



あいち脳神経クリニック
丹羽愛知 Dr.



★長久手市在宅医療・介護連携支援センター第6回市民公開講座 の開催 3/3(日)

「エンド・オブ・ライフケア ～認知症とともに、より良く生きる～」



参加者276名



司会：
やまびこ長久手 佐光



開会の挨拶

服部 努 Dr. 佐藤 有美市長



これからますます増えてくる認知症。認知症になった方が人生の最終段階をより良く生き抜くためには？
医療・障がい福祉の専門職やご家族の体験談を聞きながら皆さんと考える機会を持ちました

第1部 講演

「認知症の方を介護する家族を支えるということ」
永井内科クリニック 永井修一郎 Dr.



「認知症があっても、ひとり暮らしできますか？」
百千鳥福祉会 竹田晴幸さん

「迷い、悩み、考えつづけた日々 看取り終えて、今」
認知症の人と家族の会 相墨朋子さん



第2部 パネルディスカッション

「認知症の方の支援の実際を通して考える」

事例提供

ハートフルハウス居宅 加藤圭子さん
小規模多機能「楽家晴」 山下睦さん



当日ご参加くださいました市民の皆さん
長久手市多職種連携推進・交流部会の皆さん
市民公開講座を支えてくださったすべての皆さんに
心よりお礼申し上げます。

2024年3月 やまびこ長久手 佐光